

学校、企業などで

# 積極的に心の問題をサポート

## 追手門学院大学の 地域支援心理研究センター

幼児から社会人まで 様々な悩みに対応

大学に蓄積された心理学の知識や経験を、積極的に地域社会に生かしてゆこうと、追手門学院大学に「地域支援心理研究センター」(センター長、井上知子人間学部教授)がこのほど、完成し、本格的な活動を始めています。荒れる学校、家庭崩壊、職場でのうつ病などの増加、働く意思のないニートの増大等々、現在の日本社会は痛んだ心に関係する様々な問題に苦しみ、社会の崩壊さえ招きかねないと心配する声もあります。そこで、心理学の教官や臨床心理士、大学院生らが地元の学校、教育委員会、企業の中に積極的に入って行き、問題解決に貢献しようとしています。

### 設立の趣旨

助けを求める要請があちこちから

追手門学院大の地域支援心理研究センター

「あちこちの学校で学級崩壊などが起き、これまで、学校や教育研究所などから次々、助けを求める要請がありました。追手門学院大学は産業、社会心理学の分野にも実績をあげてきましたから、企業からのカウンセリングなどの要請も多く、地域との連携の必要性を痛感していました」とセンター長の井上教授。



そんな時タイミングよく、文部科学省が私立大学の研究基盤の高度化を図るため、『オープン・リサーチ・センター整備事業』を始めました。国が大学や大学の研究所の本格的なプロジェクトに対して、研究費、施設・装備費などに補助金を与えるなどして総合的、重点的にサポートしよう、というものです。

特徴の一つは、「オープン」という名称が示すように、研究と同時に高度で専門的知識をもった人材養成はもちろん、多様な人材を受け入れること、研究成果を広く公開すること、が条件になっています。

## 実績が評価され、選定を受ける

そこで、同大学が平成 16 年度の整備事業に申請を出したところ、これまでの実績が認められ、「選定」を受けました。

同大学の整備事業の内容は、

研究組織名が「地域支援心理研究センター」。

プロジェクト名は「心理学の地域貢献に関する研究」- 地域社会との連携による心理的問題についての解決及び支援方法の開発

研究スタッフは教授、助教授、講師ら約 20 人。大阪市立大学、名古屋大学の教官も含まれています。事業は昨年 4 月にスタートしましたが「地域支援研究センター」の建物（同大学キャンパス内）はこの春、完成したばかりです。

## 学級崩壊、家庭崩壊、職場の苦悩...悩みだらけの日本社会

最近の日本社会は物質的には豊かになっていますが、心のほうはすさむ一方。

子供の問題をみると、小、中、高等学校における学級崩壊、いじめ、校内暴力、不登校、学力低下、体力低下等々難題が山積。しかも、解決方法が見つからないまま、場当たりの対応しているのが現状です。

大人のほうも、核家族化、離婚の増加などのために、幼児に対する子育て不安があったり、幼児虐待や PTSD(心的外傷 = ト라우マ = によるストレスからくる心身障害)に苦しんだり、さらに、企業のリストラの中で、仕事のストレスから薬物やアルコール依存に陥ったりーといった人たちが増え続けており、6 月 18 日付の新聞によると、精神障害で労災認定を受ける人が過去最多に達しています。自殺者は毎年 3 万人を超えています。

こうした現状に対して、多くの大学はこれまで、研究センターで、その成果を社会に役立てる姿勢に欠けていました。

**センターの事業内容**

センターの事業内容は、 子供の問題行動解決のために、地域社会、学校、家庭にどのように働きかけてゆくかの研究 専門的な心理臨床相談 心理学研究者や臨床心理実践家の養成・教育 研究成果の公開、の4つ。

研究分野では子供を取り巻く社会、学校、家庭など環境について研究し、それぞれの集団がもつ教育機能を明らかにするとともに、対処方法を体系的に作り上げる。また、幼児から老人に至る発達段階における人格形成の特徴を明らかにし、発達段階における病理や障害について、その対処方法のモデルを構築するための研究を行う、などとなっています。

研究成果の公開では、シンポジウム、講演会、研修会を開くなどを予定しています。

心理臨床相談については、センターの中に附属機関として「心のクリニック」を設置し、子供が遊びを通じて心の悩みを治す「プレイセラピー」用の部屋や親も含めた集団カウンセリング室、心理検査用の部屋、大、中、小の面接用の部屋などがあります。ここでは、子供が落ち着きがない、友達を作れない、不登校・不登園、言葉の遅れなどの治療に、教授や教授の指導を受けた大学院生らが対応しています。

カウンセリングでは、カウンセラーとの交流を通してともに問題解決の方法を探るもので、対人関係、進学、就職、転職にかかわる問題、恋愛、夫婦関係の悩みなど各種の相談に応じ、心理テストの実施もあります。スタッフは資格をもった教員や臨床心理士ら。

「心のクリニック」は有料で健康保険は効きませんが、通常の施設の3分の1から半分の料金で対応しているということです。

### 「いろんなところへ走ってゆきたい」

遊びを通して子供の可能性を引き出すプレイセラピーの部屋



井上教授は「最近では教育の機能が家庭、学校、職場などで崩壊しつつある。しかも、地域の働きかけが無く、孤立化の傾向が見られます。こうしたケースでは相談や連携を強化してゆくだけでも、かなり良くなると思われることが多いので

す。追手門学院大学はスタッフも多く、企業や組織に入っていくと、産業心理

学にも力を入れてきましたが、さらに一層、地域に出て行きたい。いろんなところへ走ってゆきたい」と意気込んでいます。

また、精神科の医師や病院との連携を強化し、協力体制を組んで治療効果を上げることや、交通事故を減らすための交通心理学の研究などにも取り組み、学問の成果を地域に生かしてゆくことにしています。

なお、人間学部心理学科は来年4月から、心理学部に昇格します。

(株)大阪彩都総合研究所  
主任研究員 橋本 剛

### 追手門学院大学地域支援心理研究センター

〒567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15

「心のクリニック」(完全予約制で、初めての人は必ず電話予約が必要です)

TEL 072-643-9439

FAX 072-643-5790

E-mail [clinic-prcs@jimu.otemon.ac.jp](mailto:clinic-prcs@jimu.otemon.ac.jp)

受付 月～金午前10時から午後4時半

夏期休暇、年末年始、3月20日～4月8日は休み